

かめのり大学院留学アジア奨学生

月次報告レポート

(2018年9月)

夏の研修交流会

今年の研修交流会ではじめて鹿児島に来きました。街中に溢れたのは今年の大河ドラマの主人公の西郷隆盛でした。最初雨でちゃんと行けるかどうか心配しましたが、無事に着くことができ、よかったです。みんなと会うのが1月以来であり、はじめての人もありますが、みんな元気そうでよかったです。

鹿児島に着いたらすぐバスに乗って半日の旅行がはじまりました。バスに乗って、窓外を覗いたら、西郷像などそれと関連したものがどんどん目に入って来て、「鹿児島は本当に西郷隆盛いっぱい！」と思いました。船に乗って桜島の展望所に行ったら、霧で一望することができなかつた。少しついてないなと思いましたが、「また来てね」という誘いだと思って、残念の気持ちが少し減ったと思います(笑)。夕食のとき鹿児島の先生が来て、いろいろ鹿児島の話をしてくれた上、お土産もくれて、「鹿児島の人親切で優しいな」と思いました。

二日目に一発目で発表して、いろいろ緊張していますが、多くのアドバイスがもらってありがたいです。三日目の発表でしたが、まだまだ不足しているところが多くて、発表が終わったあとみなさんの報告を聞きながら「一人の反省会」をやりました。一日の報告が終わりまして、黒豚のご褒美で疲れが一気に飛んでました！しゃぶしゃぶだけでなく、ほかの料理も美味しくって、お腹いっぱいになりました。

三日目は、主に一年生の研究発表でした。いままで触れてなかった知識がいっぱいあって、新鮮で面白かったです。そして、今回はOBの姜さんのミニ講義聞いてすごく勉強になりました。姜さんは自分の経験に基づいてみんなに卒業後の話をしてくれた上、自分の履歴書まで見せて、すごく参考になりました。これから博論はもちろん、それ以降の計画も立たなければならぬので、先輩の話を参考しながら考えてみると思いました。

三日間の研修が終わり、三年間の研修が終わり、本当に勉強させるところがいっぱいありまして、一緒に切磋琢磨している奨学生たちやOBたち、西田先生、財団の方々に感謝です。

(→右は湯之平展望所で撮った写真です(笑))。



研究について

今月もこれから投稿する論文を書いています。いまは初稿が完成して、細かく修正しています。以下は論文の一部です。

「学制」以来、近代教育制度の創設が図られたが、教育の機会均等を標榜する「学制」の施行は予想以上に困難を極めた。このような状況に直面していた時期に、文部省行政の中核にいたのは田中不

二磨であった。田中は河野敏謙が文部卿に就任するまでの間に、文部卿の欠員や文部卿の頻繁な転任など不安定な情勢の中で、実質的には文部省の主導的な立場にあった。彼は文部大輔として着任すると、まず「学制」の施行と「教育令」の制定を取り込んだ。また、田中と共に「学制」の施行に力を入れたのが、のちに「改正教育令」の制定に携わる九鬼隆一であった。

当時の地方の実態について、九鬼隆一が『文部省第四年報』で、庶民の貧困とは「其三四ヲ正税ニ充テ其一二ヲ公費ニ供シ又其二三ヲ地主ニ納レサルヘカラス」と述べている。また、庶民の子供は「六七歳ニ及ヘハ父母外ニ出ツル時は留リテ内ヲ守リ外ニハ見ヲ負ヒ草ヲ刈リ或ハ牛ヲ牧シ…百般ノ業ヲ營ミ多少ノ産業ヲ輔ケサルヘカラス」とも指摘している。

ここに見るように、教育費や教育内容と庶民の生活とがかけ離れているため、庶民には不満が生じつつあった。さらに、徴兵告諭における「血税」という言葉に対して教員が血を取る人であるかのよう誤解され、小学校への毀焼事件が起こったこともあり、就学率は低迷していた。